

# 道教組

2019年4月1日発行

DOKYOSO NEWS VOL.541

教職員とその家族を守る  
全教自動車保険

## 5つの特徴

- ①無事故割引を引き継ぎます
- ②団体扱い割引を10%に拡大
- ③家族の車もまとめるとさらに割引
- ④退職者もメリット引き継ぎで安心
- ⑤申し込んだその日から安心

有限会社 川上企画

(道教組指定代理店)

札幌市中央区大通西12丁目4-78

TEL:0120-222-789 FAX:011-218-2472

.....道教組第32回定期大会開催.....

職場と地域で「要求の多数派」をつくるとりくみの前進を



期大会が開催されました。1  
日の集中討論を含めて、今  
の組織・運動をどう発展させ  
ていくかということでした。

大会では、道労連三上議長、  
全教檀原書記次長、道高教組  
尾張委員長、道退教渡部会長  
が来賓としてあいさつしました。  
また、指定討論として、  
子どもセンター原田相談員と  
道教組共済会小西書記が発言  
をしました。

熱い熱い討論の結果、第7  
号議案を除き採択され、継続  
審議となつた第7号議案につ  
いては、道教組運動発展の展  
望とあわせ、これからも討議  
を重ねていくことが確認され  
ました。

川村委員長あいさつ

「道教組らしさを前面に  
うつつの課題」

○「教え子を再び戦場へ送ら  
ない」の決意を一層強く結  
ぼう

私たちの教え子を戦場に送  
り出す国にするのか、平和の  
うちに暮らし続けることでの  
きる国にするのか、改憲をめ  
ぐる動きが風雲急を告げてい  
ます。市民の立場であること  
の重みをふまえ、教え子を再  
び戦場へ送ることとのな  
い政治の実  
現を目指し  
ましよう。



○おわりに

道教組は、様々に厳しさを  
抱えています。でも、私たち  
の歩みは、王道を進んでいる  
のだという気概と自覚を持つ  
て進んでいこうではありません  
か。

今まで、道教組という家族  
と道高教組という家族はとて  
も近しい友人でした。それが  
一つのシェアハウスでともに  
暮らすということは、『かた  
ち』が変わることになります。  
その時、それぞれの家族が「う  
ちの家族って、どんな家族だ  
ったけ」と振り返ること、道  
教組運動の原点とその財産を  
今一度しっかりと学び直し見つ  
めることができ、とても重要なこ  
とです。

○教職員の生活と権利擁護の  
課題を「子どもが主人公の  
学校づくり」とつなげて  
学校は、私たちが働く場で  
あるとともに、子ども達を人  
的に成長させるという国民  
的事業の実践の場でもあります。  
ですから、私たちの労働  
条件は子ども達の教育条件の  
重要な一つです。その改善に  
は教育・教員を取り巻く人々  
との合意こそが不可欠であ  
り、私たちが学校づくりの基  
本としてきたことです。様々  
なレベルで合意を重ねる努力  
が、子どもが主人公の学校づ  
くりにも、教職員の生活と権  
利を守ることにもつながるの  
です。

○組織づくりの課題に新たな  
視点を

**道教組運動について、19本の活発な討論**

**山本佳奈子特別代議員（女性部）**



総会と学習会を実施。女性部アンケートには208名の声があり、ハラスメントなどの悩みが寄せられた。組合で連携を取りながら、1人をみんな大事にしたい。

**鈴木健代議員（全労路）**



職場で超勤の問題が共通話題になってきた。「要求の多数派」は要求の自覚から。大会後に学習会を実施。組合員が共通理解をどう作るかが大事。保育と教育の会とも連携している。

**山上裕和代議員（根室）**



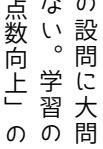
事務仕事が多く「不夜城」と言われるほど。分掌会議は休息時間に食い込む。特支の打合せの設定が難しい。同僚とのグチが対話となり、要求になる。この対話を増やしたい。

**大石準代議員（檜山）**



未配置について、4月からの代替教員がない。管内各地でも同様の状況があるようだ。超勤も深刻で、自分の生活を後回しにしてしまう。それによる問題もあった。

**中村哲也代議員（上川）**



チヤレンジテストの設問に大問題。正解者がほほいない。学習の系統とも合わない。「点数向上」の

ためのテクニックだけを身につけさせようとする道教委の姿勢は疑問。

**櫻井貴幸代議員（空知）**



英語のチャレンジテストが始まつたが設間に問題がある。全国学テの英語導入は負担が大きい。小学校英語の教科化にも危機感がある。空知合研では学テ体制下の実態を交流した。

**河上創代議員（石狩札幌）**



9月の震災後の時数確保で毎日6時間に。高学年の先生は大変で子どももイララ。校長が示すPTA役員選びの改善策も、実効性に疑問があり、自分でもとりくみを工夫したい。

**吉田圭子代議員（札幌）**



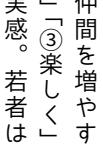
「ここ一ご一プロジェクト」対応のため職員室が空に。進度を決め、機械的な振り分け。統廃合も住民の意見を聞かず、本質は教育費カットだ。広く知らせ、地域と共同したい。

**工藤恒代議員（宗谷）**



今までの組合活動22年を振り返って、入ってよかつた。支部では執行部を11年経験し、いろいろと学べた。人事のよさを若い人に伝えたい。

**中里明雄代議員（胆振）**



組合をどう見せて仲間を増やすか。「①学ぶ」「②働く」「③楽しく」の④よかつたな」の実感。若者は

「等価交換」。「聞きたい」「楽しそう」の活動で組合を強くたくましくしたい。

**山本仁史代議員（網走）**



「したいことをして生きていく」ただし、独善的にならないう。ワカサギ釣りの企画が楽しかった。みんなが「やろう」「いいね」と作つていて時間が道教組でも大事にしたい。

**中村徹代議員（上川）**



たたかい方には工夫が必要。「とりくむ」と「たたかう」はやはり違う。組合加入はいざという時の「保険」。自分たちが何かしら関わってよくしていく意識を。訴え方は大事。

義が薄らがないよう近くに組合員がいること、事務所に常に人がいることが大事。

**國保いづみ特別代議員（養教部）**



定数改善の署名に力を入れた。災害避難所について、生きるのは希望があつてこそ。今の子どもたちは、不登校が増え、希望が著しく低い。教育こそ、子どもの希望を。

**永島敦史特別代議員（事務職員部）**



全国事務研は約100名の参加で大成功。PTA行事は割り変更の対象にならない。事務の専門性を生かしてとりくんでいる。全国常任となり、全国のつながりを生かしたい。

**田中豊一特別代議員（障教部）**



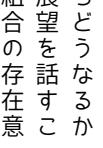
約20名の拡大。今年は過年度が多くつた。幌延支部の粘り強い声かけの成果。今年は「幌延元年」。「共済アドバイザー」として加入促進した。災害給付も拡大につながった。

**釜范圭代議員（全労路）**



全労路の組織づくりで、支部体制を本部に一本化。生権部を立ち上げ、いずれかの部に全員が所属することで、つながりが見えるように。ボトムアップのとりくみをすすめたい。

**新田智子代議員（渡島）**



組織減で、これからどうなるか不安もある。今後の展望を話すことを大切にしたい。組合の存在意

○討論のまとめ  
1日目の集中討論とともに、組織・運動の展望が議論の中心。不安も含め、率直な討論がなされた。やらされ感、負担感のとりくみではなく、ボトムアップの主体的な運動づくり。  
「要求の多数派」づくりは「要求の自覚から」との発言や、グチから対話し、要求につなげていく子どもとのつながり、保護者や地域とのつながりの中に、教職員の主体性が發揮できる。  
組合の学習を大切に、実践を学び合い、組合そのものを学び合い、道教組運動をさらに発展させよう。

**○選出された新役員**

執行委員長  
川村安浩（空知教組）  
副執行委員長  
新保裕（道教組）  
古川晃男（全労路）  
内藤修司（宗谷教組）

書記長  
斎藤鉄也（全労路）

書記次長  
安里朗（檜山教組）

不盡さ、スタンダードに落ち込むが、好きなことを見るよう

は誰かに教えてもらうのではなく、自分の中にある。理

由木康展（全教石狩札幌）

監査委員  
中村賢明（上川教組）

○討論のまとめ  
1日目の集中討論とともに、組織・運動の展望が議論の中心。不安も含め、率直な討論がなされた。やらされ感、負担感のとりくみではなく、ボトムアップの主体的な運動づくり。  
「要求の多数派」づくりは「要求の自覚から」との発言や、グチから対話し、要求につなげていく子どもとのつながり、保護者や地域とのつながりの中に、教職員の主体性が發揮できる。  
組合の学習を大切に、実践を学び合い、組合そのものを学び合い、道教組運動をさらに発展させよう。